九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」AQUA (Asia-Kyushu Advanced Medical Network)活動報告 : 第4巻

清水, 周次
九州大学病院

中島, 直樹
九州大学病院

https://doi.org/10.15017/10571

出版情報：「超高速ネットワークを利用したアジア遠隔医療プロジェクト」 TEMDEC活動報告. 4, pp.1-112, 2008-04. AQUA事務局
バージョン：
権利関係：

11.　おわりに

この度、福岡県の IT 政策を示す「新ふくおか IT 戦略」に、福岡県から AQUA への活動支援が明記されることとなった。また 2008 年 1 月には福田首相が国会で AQUA の活動に言及し、我が国における主たる国際遠隔医療活動として政府からも認知されるに至った。そのような流れの中で、九州大学病院に正式なセクションとして遠隔医療センターを 2008 年度内に設立することがほぼ決定した。我が国の大学の遠隔医療センタとしては旭川医大の遠隔医療センターに続き 2 施設目ではあるが、「国際」を活動の中心とした初めての遠隔医療センターである。AQUA の地道な活動が認められた結果であり、協力いただいたアジア太平洋地域の方々に感謝を申し上げたい。今後 AQUA は「九州大学病院・アジア遠隔医療開発センター（仮称）」として正式な活動として存続することとなる。

一方で、APAN-medical の活動は安定し、さらに北米やＥＵとの連携の動きも活発化している。年 2 回の APAN 会議の際の medical への参加者は年々増加し、内容も高度化、多様化し、注目も増えている。これらはもともと医療側にそのニーズがあったのみならず、それに応えうるシステム構築を可能とした情報工学の発展により成された。こちらも大変喜ばしいことである。

これまでは APAN-medical のイベントのほとんどに AQUA が関与していたが、少しずつ APAN-medical の日本以外の仲間同士でもイベントの開催が始まっている。この mono-central から multi-central への新しい動きは、APAN-medical が自律的に成長し始めた証拠であり、活動当初から清水先生を中心に我々が期待していたところで心より歓迎する。今後 APAN-medical には、国際イベントの開催を可能な限り自由に、かつオープンに管理していただくことを希望する。AQUA は APAN-medical を支えつつ、その管理の下でアジア太平洋各国と日本の各地域を接続することに注力していくことになる。

このような AQUA や APAN-medical の活動の転機は、プロジェクト全体がいよいよ試行段階から実践段階へ移行していることの表れでもあろう。毎年、AQUA の年次報告書の「あとがき」をこの春を待つ季節に書くようになって 4 年目、アジア太平洋の医療標準化に向けた皆の思いが、いよいよ蕾の段階くらいには達したように感じている。

2008 年 3 月 17 日

九州大学病院医療情報部　中島直樹